

組合員の作品



寝屋川 田んぼアート
“ネヤガワサイコー”
成田支部 南みつぐ



絵手紙
あいあい支部
上原 克子



絵手紙
門真西支部
船津丸 ミツエ

短歌

西陽射す非常階段に熊蟬の骸が二つ転がりており

みい西支部 堀 正子

足弱くなりしばかりに駄までの五分の道をそろそろと行く

守口さつき支部 中山 惟行

ボブデイルンの「風」に吹かれて「聴きながらベトナム反戦デモを想えり

あいあい支部 長野 晃

運動会メダル無縁の親友といつもの様に下位を争う

門真中央支部 兵頭 克己



写真 彼岸花
ハイキング同好会

娘たちのささやかな願いに
暴力でこたえる会社



ピケはる娘

小羽田正孝、パリゼンヌ労組 作詞
北出二郎 作曲 1962年

1番

はばたく赤旗に守られた
小さな白い工場の中に
ピケはる娘の手は凍えても
働く仲間の血は燃える

2番

闘うビラに包まれた
高く長い工場の塀に
ピケはる娘の手は凍えても
働く仲間の声は響く



松尾書記長

昭和36年(1961年)頃、守口市滝井にストッキングメーカー・パリゼンヌ本社工場がありました。そこで働く人達が労働条件の改善を求めて労働組合を結成。会社は組合の要求に一切応ぜず、逆に弾圧してきました。

この事情を当時の労働組合書記長・松尾郁子氏は次のように述べています。

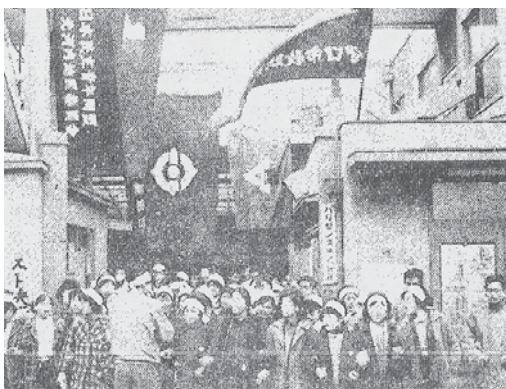
ささやかな要求に会社は何も応えず、4名の指名解雇、書記長の出勤停止、寮長への退寮命令という攻撃を仕掛けてきました。

その後、「ピケはる娘」が、支援の合唱団によってつくられ、構成劇となり守口のうたごえ祭典で上演されました。

最終的には、松尾さん以外は全員現職復帰をかちとりました。

成田支部

南 みつぐ



ストライキ決行中

の指名解雇、書記長の出勤停止、寮長への退寮命令という攻撃を仕掛けてきました。それに対して組合は無期限ストを決行。昭

和37年2月、寒さがとりわけ厳しい日。工場を拠点にしてピケ(ピケッティング、見張り)を張り、一部は街頭宣伝にでていたところ、突然の「暴力団」の乱入という恐ろしい事態に。私達は泣き叫び、逃げまどいました。私は、血の気が引いて足が震えました。しかし、今こそ勇気を出さなければと、拳を突き上げて腹の底から「がんばろう」を歌ったのです。歌に励まされ、仲間がスクラムを組み直し、私はその輪のなかにいました。

駆けつけてくれた地域の労働者、民主団体の人々に励まされ、スクラムは固く輪も広がり、若い娘たちの涙に濡れた目が、仲間への信頼と勝利への確信で、キラキラと輝き、笑みまで浮かんできました。